

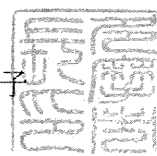


20多都道第1727号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

多摩市長 渡 辺 幸 子



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付、国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

東京都多摩市

道路施設の現状として、多摩市は多摩ニュータウン事業により高規格・高幅員の道路及び橋梁が一定の期間に集中的に整備されました。

このため今後、老朽化した道路施設への対応が多くなると予想され、特に道路橋梁においては5年～10年のサイクルで定期点検を行い、橋梁の保全度の把握に努めているところですが、補修にはなかなか手が出せない状況です。

このような状況を背景に、今後老朽化した橋梁が増大し適時適切な管理を怠れば、架け替えや大規模な修繕が必要となり、一自治体として近い将来大きな財政的な負担が生じる恐れがあります。

そこで道路の持つ機能として安全性・信頼性を保つことは当然のことであり、生活のためのネットワークとしても機能を確保することが重要となってきています。

道路施設の維持補修については従来の事後的な対応から、予防的・計画的な維持補修対応を図るよう、政策転換を図ることで安全性・信頼性を確保していく必要があると考えております。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式 ②

東京都多摩市

○ 現状

多摩市では数百路線に及ぶ総延長 240 km 以上の市道（アスファルト舗装）を管理しており、その大部分は多摩ニュータウン事業により整備された、歩車道分離の道路ネットワークとして整備されており、高幅員の道路とともに道路整備率は 98% 以上になっている。

また、市内には道路整備とともに多様な街路樹が植えられ、緑化された歩行者専用道路のネットワークも整備され、市民生活の安全安心とともに、潤いの源となっている。

○ 課題

主要な道路については多摩ニュータウン事業により高規格・高幅員な道路として整備されている

平成 17 年度で多摩ニュータウン事業が完了するにいたった状況ではあるが、道路関連等の整備促進として南多摩尾根幹線の早期事業化及び、側道部分の渋滞緩和対策を計るとともに、町田街道以西への延伸計画の事業化を、東京都へ要望を行っている。

② - 2 地域の目指すべき将来像

多摩市は昭和40年12月の都市計画決定以来、新市街地の形成を計り40年を経た平成17年度に、新住宅市街地開発法に基づく事業完了となりました。今後の課題事業としてニュータウン再生が動き出しているところです。

多摩市はニュータウン初期の昭和40年代に計画されたため、後期に計画された地域に比べてユニバーサルデザインの精神に基づく基盤整備に弱点があります。

そのため、高齢化や都市機能の高度化などによる社会環境の変化に対応した整備を求められ、市民からのユニバーサルデザインに基づく整備要求も多々出始めてきています。

多摩ニュータウンは特に多摩丘陵を造成したことにより、高低差の多い道路ネットワークとなっており、高齢化社会にむけた対応が必要であります。

人々が日常生活の移動に利用する最も身近な道路は生活道路であり、今後の道路も止められる条件として、特に利便性安全性が求められています。

これらの状況を踏まえ、道路本来のあるべき姿に立ち返り、車社会優先の都市構造からの脱却と共に人優先の「みち」であるべき道路機能回復を重点に「歩行者の安全を優先させた道路整備」を基本理念とし、誰もが安心して住み続けられる道づくりの実現を目指していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

東京都多摩市

③道路施策の重点事項(代表事例・期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・渋滞緩和対策	南多摩尾根幹線整備	側道部分の渋滞緩和対策	
・通学路の交通安全対策	中和田通りの拡幅整備	小学校の統合に向けての道路整備 (歩道の幅員を広げる)	